

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
◎学校教育目標 1. 幅広い知識と教養をそなえ、真理を追究する生徒の育成 2. 豊かな情操と道徳心を培う生徒の育成 3. 健やかな心身を養う生徒の育成	・基礎学力の充実と学習習慣の確立。 ・規範を重んじ自分の判断で自律的に正しく行動する力の育成。 ・自他の生命を尊重する心を基盤に、豊かな情操の育成。 ・個性の発見を促し、自己実現の達成を図る。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 ◎国語、数学共に平均を下回っており、苦手と思われるような設問、しっかり読み取る必要のある部分では、無回答率が高くなっている。 * 国語A ・文章に表れているものの方考え方を読みとる、漢字の読み、語句の意味を理解し文脈の中で正しく使う部分の問題の正答率は平均を上回り、力がついてきている。 ・文章の構成、場面の展開、相手に正しく伝えるといった、話すことや聞くことに関して弱さがみられる。事象や行為などを想像し、考える力や、古典については取り組みの改善が必要。 * 国語B ・短答式の問題には意欲的な解答率がみられる。 ・自分の考えを書いたり、相手にわかりやすく伝えるたり、見通しを持つといった問題では、無回答率が高く、弱さがみられる。 * 数学A ・グラフの読み取り、図形の移動については改善がみられる。 ・数量の関係を文字式で表すこと、等式の変形、扇型の弧の長さなど、無回答率が高く、弱さがみられる。特に関数については改善が必要である。 * 数学B ・与えられた情報から必要な部分を選択する問題では改善がみられる。 ・問題の意味を読み取り、しっかり考え、説明することに関しては弱さがみられ、改善が必要である。	【学習状況調査の結果】 ・自己肯定感、学校生活が楽しいと感じている数値は安定した良好な状態である。 ・家庭での不規則な生活態度、朝食を抜く生徒の率は平均値より高い状態である。 ・読書の時間が徐々に減ってきている。と同時に読書が好きといった生徒の率も低くなっている。 ・家庭学習の時間は全般的に女子が多く、男子が少ない状態である。 ・与えられた宿題はこなすが、自主的に学習に取り組む生徒は少ない。 ・マスメディアに関わる時間は平均的に少ないが、スマホやケータイに費やす時間が多い。 ・ボランティア活動や地域の行事へ参加する生徒は多く、あいさつなどきちんとできる生徒は多い。

成果	課題
・メディア調査など継続して取り組んでいることで、家庭での理解が進んでいる。 ・漢字や、自主学習ノートでの取り組みは徐々にではあるが生徒の学習の土台作りとして定着しつつある。 ・読書に関しては平均値より高い水準で移行しているが、徐々に関心が薄れている実体が見られる。現在行っている「読み聞かせ」活動を継続するなど効果的な取り組みであると思われる。 ・保護者によるPTA活動での声かけ運動や、あいさつ運動などが継続して行われており、地域の協力体制が機能している。	・基礎学力の定着 ・家庭学習時間の確保(自主学習の取り組み) ・時間をかけてじっくり読み込む力(意欲・根気)の育成 ・問題解決に諦めず取り組もうとする意欲の育成 ・自分の意見をまとめること ・自分の意見や考えを整理して相手に伝えること

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
本年度の本校の研究テーマ「能力的な授業づくりによりよい集団づくり」が達成されるよう、各部会での取り組みを推進。 ①授業力向上 ②集団づくり(規範意識の向上) ③基礎学力の向上	本年度	①全教員による研究授業の実施と研究協議11月の集中開催 ②委員会活動等の活性化と生徒の自律的な活動の育成、全校集会での活動報告、道徳教育の実施と検証(広域学習の実施、小学校との連携・授業見学) ③全校チャレンジテストの実施(8割合格を目指す)	・定期的な部会を実施、PDCA検証 ・生徒指導委員会を基盤とした全教員による共通理解 ・5教科により全校一斉のチャレンジテストの実施と平均点の公表による意識づけ	・各部会、生徒指導委員会の共通理解については概ね計画通りに進んでいる。 ・全校チャレンジテストは、Tチャレに変更し、朝読書の時間を活用し実施。表彰を行い生徒のモチベーションを高めている。	B	・各部会、生徒指導委員会の共通理解については十分な成果は得られなかったが、次年度に向け方向性を見出すことができた。・生徒指導委員会では、Tチャレに変更し、朝読書の時間を活用し実施。表彰を行い生徒のモチベーションを高めている。	B	・指導の重点を基に、授業研究、研究課題を明確にし、職員一丸となって方向性を見だし、研究を推進する。
家庭学習の定着・充実	本年度	・課題提出率8割以上 ・自主学習ノートの活用(教科枠を超え、8割以上の提出を目指す)	・提出状況のチェック、保護者連絡(定期考査時) ・教室後ろの掲示板の活用(定期的なチェック、記入) ・自主学習ノートは国語・英語で実施しているが、自主的な家庭学習の定着を目指すため検証を進める。	・自主学習ノートの活用については本年度は見送り、検証を進める。家庭学習の定着に向けては、教室後ろの掲示板を活用し、各教科での課題を明確にす ・放課後10分間の学習では、数学の單元毎のテストが実施できた。合格点に満たない生徒は木曜、金曜の放課後再テストを実施。合格めざし、シール褒めや、別の声かけを実施。	B	・自主学習ノートの活用については本年度は見送り、検証を進める。家庭学習の定着に向けては、教室後ろの掲示板を活用し、各教科での課題を明確にす ・放課後10分間の学習では、数学の單元毎のテストが実施できた。合格点に満たない生徒は木曜、金曜の放課後再テストを実施。合格めざし、シール褒めや、別の声かけを実施。	B	・環境整備を通じ、視覚支援を中心に、課題提出、家庭との連携を深める。
時程を変更し、6時間目終了から10分間を基礎学力補充時間(仮称)とし、数学プリントを実施。	本年度	・全生徒のクリアーの目標を6割。	・対策プリントを教室内で学び合いの形式で実施(月～木)、金曜日にテストの実施、クリアーできなかった生徒には個別指導(放課後)		A		B	・勝北中学校独自の時間帯を有効に活用し、次年度以降の取り組みを充実させたい。

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
・県、全国学力学習状況調査の分析をもとに学力の向上を目指した授業改善 ・家庭学習の手引きの共通化 ・ノーメディア週間の設置と家庭での検証を促す取り組み ・靴そろえ、チャイム着席(教員も同様)を徹底	・ノーメディア週間の周知と、家庭での検証 ・家庭学習時間の確保 ・声かけ運動、挨拶運動の継続と実施後の検証